

アダリムマブBS「第一三共」による

関節リウマチの 治療を受けられる方へ

監修: 東邦大学医学部

内科学講座 膠原病学分野 教授

亀田 秀人 先生

はじめに

関節リウマチは、以前は治療が難しい病気と考えられていましたが、バイオ医薬品の登場により、発症の早期から適切に治療することで病気の進行を抑えられるようになりました。

関節リウマチの治療では次の3つが目標となります。

- 関節の痛みや腫れなどを改善すること
- 関節破壊の進行を抑えること
- 日常生活の動作を維持・改善すること

このように病気の進行を抑えている状態を「寛解」といいます。

アダリムマブBS「第一三共」(以下、アダリムマブBS)は、体内のTNF α という物質をターゲットとするバイオ医薬品です。

目次

◆ 関節リウマチの症状	3
◆ 関節リウマチとTNF α	4
◆ BS(バイオシミラー)とは	5
◆ 治療を始めるにあたって(問診と検査)	6
◆ 自己注射で痛みが気になるときは	8
◆ 長期の旅行や海外旅行をするときは	9
◆ アダリムマブBSの注意すべき副作用	10
◆ 日常生活で気をつけること	12
◆ 「治療記録」をつけましょう	13
◆ 治療記録	14

関節リウマチの症状

関節リウマチは、細菌やウイルスなどの病原体から身体を守るしくみである「免疫」に異常が起こり、自分の身体を攻撃してしまう病気です。

その結果、手や足などの全身の関節に炎症が起こり、痛みや腫れを引き起こします。関節の症状以外にも、だるさ、微熱などがあらわれることもあります。

関節の腫れや痛み



全身のだるさや微熱



起床時の身体のこわばり

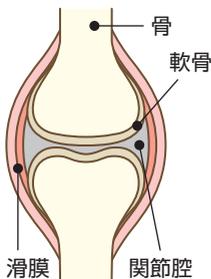


関節破壊とは？

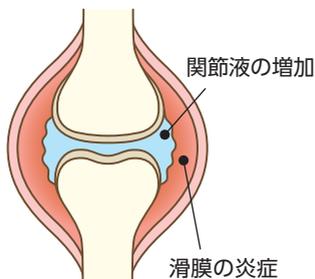
関節リウマチでは、関節を包んでいる滑膜に炎症が起こり、痛みや腫れの原因となります。炎症が長期間続くと軟骨や骨が壊れて、関節が変形してしまうことがあり、その状態を「関節破壊」といいます。

「関節破壊」の進行は、関節リウマチで注意が必要な症状のひとつです。

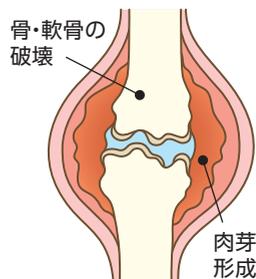
正常な関節



関節リウマチの関節



初期の状態



進行した状態

関節破壊の進行

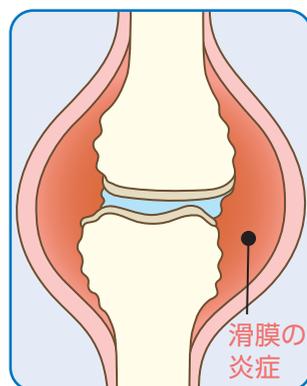
関節リウマチとは

関節リウマチとTNF α

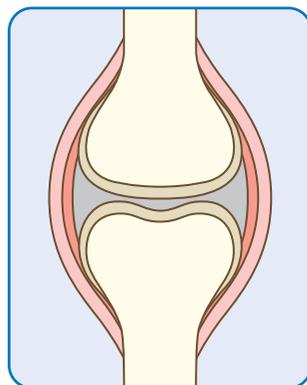
関節リウマチの発症には、TNF α 、インターロイキン(IL)-1、IL-6などの「サイトカイン」とよばれる免疫を担う物質が関わっています。

通常、細菌やウイルスなどの病原体が体の中に入ると、免疫システムがはたらき、細胞からサイトカインが産生され、生体防御作用としての炎症が起こり、感染を防いだり、病原体を排除したりします。

関節リウマチは、何らかの理由によって免疫に異常が起こり、免疫を担当する細胞が滑膜でTNF α などのサイトカインを大量につくり、炎症を引き起こすことで発症します。自分の組織や関節を攻撃してしまい、関節全体が腫れ、痛みや変形、関節破壊をきたします。



アダリムマブBSは、大量につくられたTNF α に結合して炎症が起こらないようにし、組織や関節への攻撃を減らして、痛みや腫れを抑え、関節破壊を防ぎます。



関節の痛みや腫れを改善し、関節破壊の進行を防ぐ

BS(バイオシミラー)とは

バイオシミラーとは、バイオ医薬品(先行品)の特許が切れたあとに作られるお薬で、バイオ後続品とも呼ばれます。先行品と同じ効果が期待でき、先行品よりも経済的な負担を抑えることができます。

アダリムマブBSは、日本で2008年から免疫系疾患の治療に使われてきたバイオ医薬品ヒュミラ®のバイオシミラーです。

「バイオ医薬品」のことを表す「バイオ(bio)」と、
「似ている」という意味の英単語「シミラー(similar)」を
組み合わせたことばです。



バイオシミラーが発売されるまでには、お薬としての品質や効果が、先行品と同等であること(違いがあっても、問題にならないくらいわずかであること)が厳しくチェックされます。

患者さんを対象とした臨床試験でも、有効性や安全性について先行品と同等であることを確認し、承認されます。

発売されたあとも、医療機関を通じて、実際にバイオシミラーを使っている患者さんのフォローアップを行い、安全性に問題がないかなどをチェックしています。

バイオシミラーは品質、有効性等において
先行品と同等/同質が確認されたお薬です。

治療を始めるにあたって(問診と検査)

治療開始前の主な確認事項

副作用を防ぐために次のような項目を確認します。

- 現在、服用中の薬がある
- 薬に関するアレルギーがある
- 現在、咳やのどの痛み、微熱など、風邪のような症状がある
- ワクチン接種の予定がある
- これまでにバイオ医薬品(生物学的製剤)の治療を受けたことがある
- 次の病気にかかったことがある
 - 結核
 - 重い感染症(敗血症、肺炎 など)
 - うっ血性心不全
 - 脱髄疾患(多発性硬化症、視神経炎、横断性脊髄炎 など)
 - 重篤な血液疾患(汎血球減少、再生不良性貧血 など)
 - 悪性腫瘍
 - 肝炎(特にB型肝炎)
 - 間質性肺炎

女性のみ

- 現在、妊娠中あるいは妊娠の可能性がある
- 授乳中である

治療開始前に行われる主な検査

結核やほかの感染症にかかっていないかを調べるために次のような検査を行います。

結核スクリーニング検査

- ツベルクリン反応検査、Tスポット検査、クオンティフェロン検査 など
- 画像検査(胸部X線、CT など)

感染症に対する主な検査

- 血液検査(白血球数、リンパ球数、抗体価検査* など)

* 麻疹、風疹、MRなどの生ワクチンしかない感染症の抗体価検査

B型肝炎スクリーニング検査

- 血液検査(HBs抗原、HBs抗体、HBc抗体 など)



自己注射で痛みが気になるときは

注射時の痛みを軽減する工夫

● 注射器を温める

薬液が冷たいと刺激となって痛みを感じる場合があります。

注射器を冷蔵庫から取り出したら平らな場所に15～30分程度置いて室温に戻しましょう。

それでも冷たいと感じる場合は、手のひらで温めてみましょう。



● 脂肪の厚い場所に注射する

脂肪の厚い部分を選んで注射してみましょう。

注射する際、つまんだときの厚みが1cm以上ある場所を選んでください。



● 注射する場所を冷やす、温める、圧迫する

皮膚の感覚を鈍くするため、注射の前に注射する場所を数分間冷やしたり、温めたり、数秒間強く圧迫したりしてみましょう。

● リラックスして注射する

深呼吸しながら、息を吐くタイミングで注射してみましょう。

リラックスすると恐怖心や痛みが和らぐことがあります。

入浴後はリラックスしていることに加えて、皮膚が柔らかくなり痛みを感じにくくなる場合があります。

● シリンジは素早く刺して、ゆっくり注射

針を刺す時間が長いと痛みを感じやすく、薬液の注入スピードが速い場合も痛みを感じやすくなります。

針を素早く刺して、薬液をゆっくり注入してみましょう。

長期の旅行や海外旅行をするときは

旅行前に

- ▶ まず主治医に相談して、治療に影響のない日程で検討してください。
- ▶ 旅行中のお薬の処方、体調を崩した場合の対処法なども、事前に相談しておきましょう。
- ▶ 余裕のあるスケジュールを立て、旅行前には体調を整えましょう。
- ▶ 体調を崩した場合に備えて、滞在先の医療機関を確認しておきましょう。
- ▶ お薬を海外に持っていく場合、英文の薬剤証明書が必要になることがありますので、旅行前に主治医に依頼して準備してもらいましょう。英文の診断書もあると安心です。



旅行中

- ▶ 必要なお薬は手荷物にして移動中も手放さないようにしましょう。保冷剤などを使って、注射器の温度管理にも注意してください。
- ▶ 海外旅行では、アダリムマブBSで治療していることを英文で記載したものを携帯してください。医師の診断書や薬剤証明書が必要になる場合がありますので、詳細は主治医に相談してください。



アダリムマブBSの注意すべき副作用

- ▶ アダリムマブBSの治療により、以下の副作用があらわれることがあります。
- ▶ 副作用は早期に発見し、適切な治療を行って重症化を防ぐことが重要です。
- ▶ 体調の変化に注意し、いつもと違うと感じたら、すぐに主治医に相談してください。

よくみられる副作用

● 注射部位反応

注射した場所に痛みや腫れ、かゆみ、赤みなどの症状がみられることがあります。

● 感染症

風邪のような症状がみられることがあります。

● アレルギー症状

口内の異常感、皮膚のかゆみ・赤み・熱感、発疹などがみられることがあります。



特に注意すべき副作用

● 重い感染症(結核、敗血症、肺炎など)

アダリムマブBSはTNF α のはたらきを抑え免疫に影響を与えるため、感染症にかかりやすくなることがあります。

発熱、咳が続く、痰、息苦しい、身体がだるいなどの症状に注意してください。

● アナフィラキシーショック

まれに注射して30分以内に呼吸困難、血圧低下、じんましん、吐き気などがあらわれることがあります。

● 血液障害

血液中の白血球、血小板などが減少することがあります。

かんしつ せいはい えん
● 間質性肺炎

発熱や空咳、息苦しい、身体がだるいなどの症状があらわれることがあります。

● ループス様症候群

関節痛・筋肉痛・皮疹(赤い斑点)などの症状があらわれることがあります。

だつずい しつ かん
● 脱髄疾患

神経を覆っている膜が壊れてしまう病気(多発性硬化症、視神経炎、横断性脊髄炎など)になることがあります。ご自身やご家族に脱髄疾患と診断された方がいらっしゃる場合は、必ず主治医に伝えてください。

げきしやうかん えん かん き のうしやうがい おうだん かん ふ ぜん
● 劇症肝炎、肝機能障害、黄疸、肝不全

意識の低下、発熱、身体がだるい、皮膚や白目が黄色くなる、食欲不振、吐き気、尿が褐色になるなどの症状があらわれることがあります。

過去にB型肝炎にかかったことがある方は、症状が再度あらわれることがありますので、必ず主治医に伝えてください。

その他の注意事項

あくせい しゅ ぼう
● 悪性腫瘍

TNF α のはたらきを抑えるバイオ医薬品の治療を受けた患者さんで、悪性腫瘍・悪性リンパ腫が発症した例があります。

● ワクチン接種

アダリムマブBSの治療中は、生ワクチン(麻疹、風疹、MRなど)以外のワクチンは接種することができます。まれに副反応がみられるものがありますので、ワクチン接種については、主治医に相談してください。

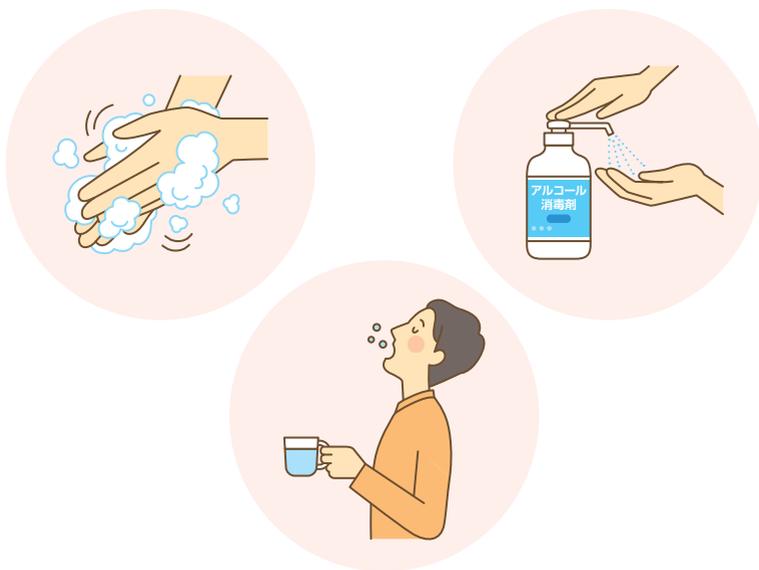
これらの症状やいつもと違う気になる
症状があらわれた場合には、
すぐに主治医に連絡してください。



日常生活で気をつけること

感染症予防

- ▶ 感染症を予防するために、手を清潔に保ちましょう。石けんで手を洗うか、消毒用アルコールを使いましょう。
- ▶ 外出先では人混みを避け、帰ったら手洗い、うがいを徹底しましょう。
- ▶ 治療中は感染症にかかりやすい状態なので、主治医に相談のうえインフルエンザワクチン(不活化ワクチンなので接種できます)を接種しましょう。



次のような症状がみられたらすぐに主治医に電話で連絡してください。

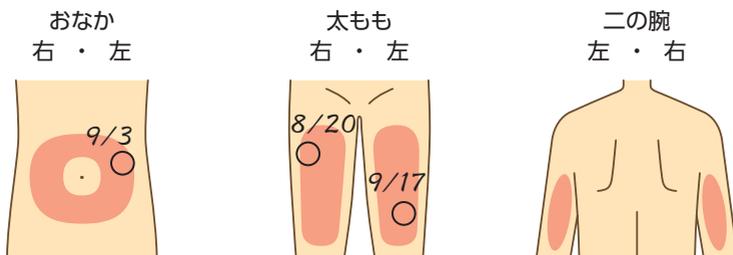
- 発熱、咳が続く、空咳、痰、のどの痛み、息切れや息苦しさ
- 疲れやすい、身体がだるい
- 発疹、皮膚のかゆみ、皮膚や白目が黄色くなった、口内炎

「治療記録」をつけましょう

- ▶ アダリムマブBSの治療スケジュールは2週間に1回の注射が基本です。注射日を忘れないように記入しましょう。
- ▶ 同じ場所に注射しないように、注射した場所を書いておきましょう。
- ▶ 体調の変化を記録して、受診時に主治医、看護師との面談に役立ててください。

記入例

注射した部位に○をつけ日付を記入しましょう。



日付	体温	症状・体調の変化
8/20(土)	36.8 ℃	入浴後、右太ももに注射(次は9/3)
8/26(金)	36.5 ℃	疲れ
8/31(水)	36.4 ℃	手の小指の関節が痛む
9/3(土)	36.7 ℃	おなか(左)に注射(次は9/17)
9/10(土)	37.8 ℃	微熱、のどの痛み
9/11(日)	36.8 ℃	だるかったので午後少し横になった
/ ()	℃	
/ ()		
/ ()		
/ ()		

▶ いつもと違う症状や体調で気になったことを記入しましょう。

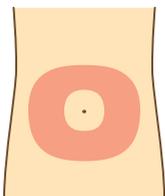
▶ 注射した日付や部位については図中に記載することにして、この欄には記載しなくても構いません。

治療記録

年 月 日()曜日 ~

注射した部位に○をつけ日付を記入しましょう。

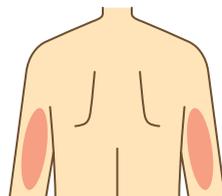
おなか
右・左



太もも
右・左



二の腕
左・右

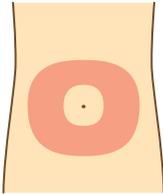


日付	体温	症状・体調の変化
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	

気になる症状や体調の変化などがあったら、忘れないうちに書いておきましょう。

注射した部位に○をつけ日付を記入しましょう。

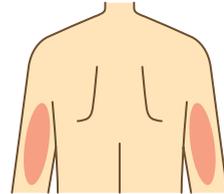
おなか
右・左



太もも
右・左



二の腕
左・右



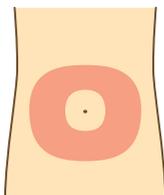
日付	体温	症状・体調の変化
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	

治療記録

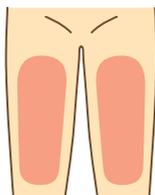
治療記録

注射した部位に○をつけ日付を記入しましょう。

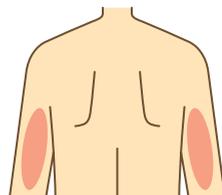
おなか
右・左



太もも
右・左



二の腕
左・右

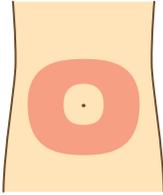


日付	体温	症状・体調の変化
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	

気になる症状や体調の変化などがあったら、忘れないうちに書いておきましょう。

注射した部位に○をつけ日付を記入しましょう。

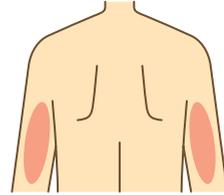
おなか
右・左



太もも
右・左



二の腕
左・右



日付	体温	症状・体調の変化
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	
/ ()	℃	

治療記録

医療機関名

担当医:

連絡先:



第一三共株式会社

提携



第一三共自己注射サポートセンター
TEL: 0120-868-132